

10 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業
 ウ ボランティアの養成・研修事業
 a ボランティアの養成事業

自然体験活動ボランティア養成研修

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年6月14日（土）～15日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 高校生以上の方17名（大学生12名・高校生2名・社会人3名）

〔担当職員〕 日高 由樹、吉田 流風、高山 雄也

1) 事業の趣旨

青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高めます。

2) SDGsとの関わり



目標4 質の高い教育をみんなに

ボランティアの意義を理解し、多くの子供と接するきっかけを作ります。



目標16 平和と公正をすべての人に

先輩ボランティアの意思を引継ぎ、自主的に活動を選択することができるようにします。

3) 目標

- ①自然の家のボランティア活動を「楽しそう」と感じてもらう。
- ②「自然の家にまた来て子供たちと一緒に活動したい」と感じてもらうこと。
- ③参加者同士の支持的風土を醸成する。

4) 研修プログラム

1日目 (6/14)	2日目 (6/15)
9:30 受付	6:30 起床
10:00 開講式	7:15 朝のつどい
10:30 【講義】活動時の心構えについて (ボランティア活動の意義 90分) 【写真①】	7:30 朝食
12:00 昼食	8:45 【説明】施設利用はどうするの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動② 30分)[写真⑤]
13:00 【講義】なんで自然体験が大事ななの？ (青少年教育 90分) 【写真②】	9:30 【説明】どうやったら活動に参加できるの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動③ 30分)
14:30 【講義・実習】野外調理にチャレンジ！ 夕食兼(ボランティア活動の技術 180分) 【写真③】	10:00 【講義】諫早自然の家ってなに？ 【写真⑥】 (青少年教育施設の現状と運営 60分)
18:00 【説明】どんなボランティア活動ができるの？ (青少年教育施設におけるボランティア活動① 60分) 【写真⑤】	11:00 昼食
19:00 【講義・実習】ワクワクキャンドルのつどい！ (ボランティア活動の技術 90分) 【写真④】	13:00 【講義・実習】応急手当を知ろう 【写真⑦】 (※普通救命講習Ⅰ 安全管理 180分)
20:30 入浴・就寝準備・就寝	16:00 アンケート記入・閉講式・会場片付け
	16:30 解散

5) 事業展開

①【講義】 ボランティア活動の意義



イニシアティブゲームを実際に体験しながら、参加者マインドを学びつつ、他者とのかかわり方について学びました。実際に自分の緊張がほぐれる体験を通して、ボランティアの存在意義を知りました。

②【講義】 青少年教育



青少年教育の歴史についての講義やペーパータワー作りを通して、青少年教育の意義を学びました。タワーを作りながら、多様な考えを1つにまとめ実際に形にしてみる体験をしました。

③【講義・実習】 ボランティア活動の技術



野外活動の技術習得の一つとして、野外炊事を行いました。薪割りや火付けの際の安全管理、指導法を学びました。

④【講義・実習】 ボランティア活動の技術



活動の技術習得の一つとして、キャンドルのつどいを行いました。様々なレクリエーションを行い、共に盛り上がる楽しさを体験しました。

⑤【説明】 青少年教育施設におけるボランティア活動①



ボランティア活動について先輩ボランティア3名から講義を受けました。3人の具体的な体験談を聞き、法人ボランティアのイメージを掴むことができました。

⑥【講義】 青少年教育施設の現状と運営



これまでの講義で学んできたことをもとに、自分がなりたいボランティア像について考えました。様々なボランティア観に触れ、ボランティアのイメージ像がより明確化になりました。

⑦【講義・実習】普通救命講習Ⅰ 安全管理



諫早消防署の指導の下、普通救命講習Ⅰの講義を受け、AEDとレサシアン人形を用いた実習を行いました。また、基本的な怪我の対処法についても学びました。

6) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ボランティアについて様々なことを学べたし、新しく友達もでき楽しみながら研修を行うことができてよかった。
- ・ボランティアの心構えと心掛けることを知れたことがよかった。
- ・ボランティアがどういうものなのかや野外調理などの実践的な活動に参加できた。

7) 成果と課題

① 成果

- ・アンケート評価は高く、参加者の声としても「ボランティアで大切にすべきことが分かった」「積極性や自分から挑戦することが大切だと知れた」など、ボランティア活動について意欲的に学び取っていたようであり、今後の教育事業などでの活躍が期待されます。
- ・実習のや講義中のイニシアティブゲームなどで他の参加者や先輩ボランティアと関わり、ボランティア同士の横のつながりを作ることができました。

② 課題

- ・今回、テスト期間などの影響もあり、大学生の参加者がすべて長崎純心大学からの参加であった。来年度は開催時期を見直しつつ、他事業などで当所にかかわりのある大学関係者にも協力を依頼し、より効果的な広報活動を展開したいと思います。
- ・実習を野外炊事中心に組んだが、天候に左右されることが多く毎年の課題となっている。今一度、当事業で野外炊事を実習として行うことの意義を再検討し、他の活動への変更も含めて検討したいと思います。